

TOWN

和やかに「日向藤蔭会」

85歳から95歳 38人集う

2/9 母校の伝統守り針供養

県立延岡高等女学校を卒業した日向市在住者の集い「第35回日向藤蔭会」が8日、同市原町の喜重会館で開かれた。同校の伝統だった針供養行事を守って

いくため、8日の「針供養」の日に合わせて毎年恒例にしている。延岡市や高千穂町在住者を含む85歳から95歳までの38人が参加。年に1度の再会を喜び

合い、和気あいあいとした中で35回の節目を祝った。開会の言葉に続いて、参加者全員で校歌の1、2番を合唱した後、物故者に対して黙とうをさげた。

長(37回生)は「後続部員がいないので年々会員が減ってきますが、新しい時代になっても日向藤蔭会がますます輝いて、いつまでも存続することを願っています。延岡の藤蔭会もみんなで頑張ってください」とあいさつした。



歌謡曲「星影のワルツ」に合わせて舞を披露する(右から)古賀節子さんと日高敏子さん



38人が参加した日向藤蔭会



「和やかに乾杯する参加者」



左から金作、五月しずみ、金作、五月しずみ



久しぶりに校歌を歌う参加者

大野精代さん、右が日高敏子さん



乾杯。おいしい料理を囲みながら思い出話に花を咲かせて、アトランションもあり、古賀節子さん(38回生)と日高敏子さん(44回生)が舞、近藤敏子さん(44回生)はレクナムスをそれぞれ披露した。最後に校歌の3、4番をみんなで歌い、来年の再会を誓い合った。

会場入り口にはひな人形と一緒に豆藪を飾り、会員たちは持ち寄り、会員たちは持ち寄り、会員たちは持ち寄り、会員たちは持ち寄り、刺して感謝を込めて供養した。

延岡市から参加した寺原八千代・藤蔭会

また、後身の延岡高校が今年創立120周年を迎えることに触れ「ちよちん行列も計画されているそうなので、皆さんと一緒にぜひ参加しましょう」と呼び掛けた。

西田雪子・藤蔭会副会長(4回生)の首領で